

専門学校 富士リハビリテーション大学校

令和 7 年度 第 2 回学校関係者評価委員会 会議録

日 時	令和 7 年 11 月 5 日（水） 19：00～20：10		
開催場所	専門学校 富士リハビリテーション大学校 101 教室		
出席者	(1) 委員（出席 4 名）		
	氏名	所属等	選出区分
	廣瀬 真人	富士整形外科病院 理学療法士/臨床部門 統括副部長	業界関係者
	佐野 正夫	専門学校 富士リハビリテーション大学校 同窓会長	卒業生
	杉山 静香	専門学校 富士リハビリテーション大学校 後援会長	保護者
	澤田 和也	介護老人保健施設キーストーン 作業療法士/事務長	業界関係者
	(2) 学校（出席 7 名、欠席 1 名）		
	氏名	所属等	
	宮下 正好	専門学校 富士リハビリテーション大学校 学校長	—
	遠藤 進	専門学校 富士リハビリテーション大学校 副学校長	—
	植田 英則	専門学校 富士リハビリテーション大学校 教務部長	—
	岡本 貴子	専門学校 富士リハビリテーション大学校 事務長	—
	市村 真樹 （欠席）	専門学校 富士リハビリテーション大学校 学生担当課長	—
	岡本 博行	専門学校 富士リハビリテーション大学校 作業療法学科 学科長	—
	大沼 賢洋	専門学校 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科 主任	—

1 学校長挨拶

2 前回議事録確認

3 2025 年度重点目標の進捗状況報告

(1) 学生募集の強化・入学定員充足

- ① オープンキャンパスの強化：昨年度同様教員の OC 出勤を増やし、4 月から 8 月は月 2 回開催した。参加数は昨年並みにとどまったが、参加人数に対する受験者数が 7 割を超える数値となった。この数値はかなり大きく、本校の魅力を伝えられた結果だと思う。東部・伊豆地区に出張オープンキャンパスを昨年度より企画しており、今年度も開催した。伊東市・下田市・御殿場市で各 1 回、計 3 回実施した。医療施設や高校の協力もあり徐々に認知度が高まりつつあると実感している。

② 体験授業の工夫：

PT 学科：学生にわかりやすい「スポーツ」をアピールしている。特に今年度から始めた adidas student trainer は県内 1 校のみの契約になっているので、魅力としてさらに感じられるよう体験授

業に一部の内容を紹介した。

OT 学科：求人の多さ（需要の高さ）をアピールしている。現場で必要とされている職種でまた職域の広さを回ごとに分けて伝えている。PT と OT の違いや共通している部分も伝え作業療法でならでは伝えるよう努力している。特に昨年度より「発達領域」に関する内容を現場に即したもので伝え、さらに今年度では発達領域で使用する備品を購入し、実際に現場で使用しているものに触れられる機会も多くしよりイメージ化しやすい情報を提供してするよう心掛けている。

③ 入試状況

第 1 回入試終了時点で PT 学科 42 名、OT 学科 30 名、計 72 名の合格。昨年同時期と同等の合格者数であった。

(2) 特色のある教育活動への取り組み

- ・カリキュラム改正を行い、次年度より運用を始める。
- ・両学科共通で「スポーツ」を更に打ち出すため、1 年次にも経験できるよう 2 年次開講の「スポーツ科学」を 1 年次へ移動し、30 時間から 60 時間とし、通年で行うこととした。
- ・「PC 演習」を I・II とし、1 年次に通年開講することとした。ICT 教育を進めると同時に、メールなど社会人としてのマナー等学ぶ場とした。
- ・多職種連携を正式な科目として位置づけ、授業として展開していくこととした。
- ・4 年次には「リハビリテーション技術論」を新設。理学療法学科学生が作業療法教員から作業療法を学ぶ。作業療法学科学生が理学療法教員から理学療法を学ぶ交換授業とした。
- ・学則変更で「附帯教育」を実施することとした。別科として「スポーツリハビリテーション科」を立ち上げる。「パーソナルトレーニングの知識・技術」「中級パラスポーツ指導員資格取得の後押し」「徒手医学の基礎修得」「プロスポーツ選手との交流」等学ぶ機会を提供していく。対象は両学科だが、初年次は理学療法学科の学生を対象とする。
- ・OT 学科でも他の資格を取得できるよう検討している。
- ・PT 学科ではエスパルスさんと中北薬品さんと共同で地域貢献事業(富士市 60 歳以上を対象に健康予防教室)を実施する。エスパルスの U チームのトレーナ活動を希望者となるが実施している。

(3) 運営方針・事業計画など教職員への周知

- ・教職員会議を 5 月 28 日に開催した。学校長より法人・学校の運営方針・事業計画を伝えた。今年度より各部署に次年度の予算だけではなく、事業計画を立ててもらった。そのことにより、教職員には運営方針の意識を高めることとなったと思う。

4 意見交換・質疑応答

- ・「adidas student trainer」の資格は病院勤務している理学療法士・作業療法士にとっても治療の幅を広げることになると感じている。スポーツ選手の日常生活の復帰だけでなく、競技復帰までアプローチができるようになっていくのではないだろうか。
- ・「adidas student trainer」のセミナーに私(佐野同窓会長)も参加した。同窓会と連携しており、同窓会の活動にも寄与していてとても良い。
- ・これから健康増進事業に活躍する場が広がっていくと思われる。その中で、「パーソナルトレーニング」などの知識を身に付けていくのは、将来の可能性を広げるにはとても良いことだと思う。理学療法

士・作業療法士という国家資格を持っている人が、地域で活動するのはとても利用者にとってうれしいことだと思う。

- ・ 理学療法士・作業療法士の国家資格以外に取得できる資格があるのは、高校生にとっても保護者にとっても、とても分かりやすい魅力ではないか。
- ・ 多職種連携が各学年で授業として取り組まれ、他校と行うことで将来にとっても役に立つと感じている。
- ・ 理学療法士・作業療法士は病院だけでなく、外に出て活動していくことは地域として求められている事だと思う。学生のうちに経験することはとても有意義な事である。

5 次年度について

(1) 次年度委員

- ・廣瀬委員 退任
- ・杉山委員 退任
- ・佐野委員 継続
- ・澤田委員 継続

(2) 次年度の日程

第1回 2026年5月13日(水) 19:00~

第2回 2026年11月4日(水) 19:00~

6 副学校長挨拶
